

聖書使徒の働き4:23~37

「一人も乏しい者がいなかった」

1. はじめに

ペテロとヨハネは釈放され、仲間のところに行き、残らず報告し、主を賛美した。

それとは別に、信じた大勢の人々の様子。

イエスの共同体のより具体的な有様。「乏しい者がいない」とは何なのか。

2. 本文・23～31節

釈放されたペテロとヨハネ。詩編2:1～2

私たちはイエスが神の子であること、そしてさらに大胆に証ができることを願います。(具体的には癒

しとしるしと不思議を行わせてください)

32～37節 イエスの共同体の様子。

34・35節

「彼らの中には、一人も乏しい者がいなかった。地所や家を所有している者はみな、それを売り、その代金を持ってきて、使徒たちの足もとに置いた。その金が、必要に応じてそれぞれに分け与えられたのであった。」

このことを共産主義的と見るか、レビ記25章のヨベルの年の実現と見るか。

ルカ4:18~19「主の恵みの年を告げるために。」

ヨベルの年:レビ記25章の説明。自由と解放の具体的な命令。それは出エジプトでもある。

10節:あなたがたは五十年目を聖別し、国中のすべての住民に解放を宣言する。これはあなたがたのヨベルの年である。

1. イスラエルの全住民は自由が与えられ、奴隷も解放される。

2. 土地も休ませなければならない。

* 宗教儀式というより経済政策である。しかしその背後にある義、あわれみは世界史の中では突出している。

3. まとめ

ルカが二つの記事(2:43~47と4:32~35)を
コイノニアと表したのは主イエスの豊かさであり、分かち
合いの多様さです。「一人も乏しい者がいなかった。」物
質的、経済的なものから精神的、社会的なものまで、私
たちが人生で経験するあらゆることが含まれます。
この共同体と比較できる考えは「自己中心」です。
使徒4:32「さて、信じた大勢の人々は心と意思を一つ
にして、だれ一人自分が所有しているものを
自分のものと言わず、すべてを共有していた。」「自分の
もの」という考えは人を孤独にします。神でないものを神
とします。
教会づくりを考える上ではこの初代教会は重要なヒント
を与えたいと思います。